

品質向上対策3本柱！

- ①適正粒数確保 (小で大きな稲づくり)
- ②後期栄養・水の確保 (粒張りの良い米づくり)
- ③土づくり (気象変動に強い稲づくり)

☆ は種は4月20日頃！ 田植えは5月10日頃！！
4月20日頃播種に合わせた育苗作業が、売れる米づくりの第一歩。早すぎる作業は危険がいっぱいです。

問題点・必要性 …… 4月上旬の播種では気象災害の危険が高い

- ・播種後の低温による育苗障害
- ・生育ステージが早期化し、高温下での登熟により品質が低下

1. は種から苗管理まで (作業日めやすは稚苗加温で5月10日田植えの場合) ※は種以前の技術対策等については、前号 (No. 2) でご確認をお願い致します。

健苗育成のために薄まきしましょう。

は種 めやす 4/20~	種	一箱あたりのは種量 (g)		10aあたり必要箱数のめやす 17~20 箱
	苗	乾もみ 130~140	催芽もみ 165~175	

芽の伸ばしすぎに注意して、軟弱徒長を防止しましょう

	加温育苗	無加温育苗
日数	2~3日	4~6日
温度	30℃	30~15℃
かん水	は種時に十分かん水	は種時に十分かん水し、4~5日して出芽状況を確認した際に、乾いていたらかん水する

晴天時などの急激な温度上昇に注意しましょう

温度	日中 20~25℃ 夜間 15~18℃	※夜間10℃以下にならないよう注意する。
かん水	1日1回 午前中に行う (10時頃まで) (こしいぶきは苗丈を確保するため1日程度長めに緑化)	

換気はこまめに行いましょう

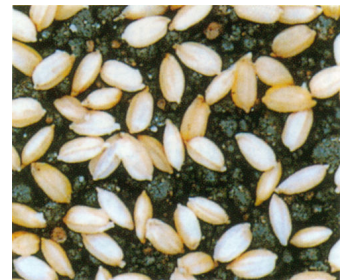
温度	日中 15~20℃ 夜間 10~15℃	※8℃以下にならないよう注意する。
かん水	前半は1日1回 (午前中)、後半は1日2回 (午後は3時まで)。 雨の日はやらない	

出芽期
めやす 出芽長
0.5~1 cm

緑化期
めやす 2~4日

硬化期
めやす 13~15日

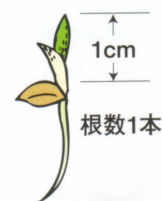
140gまき



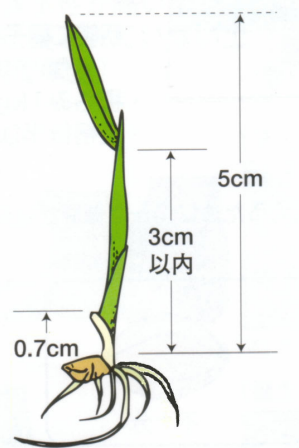
催芽状態



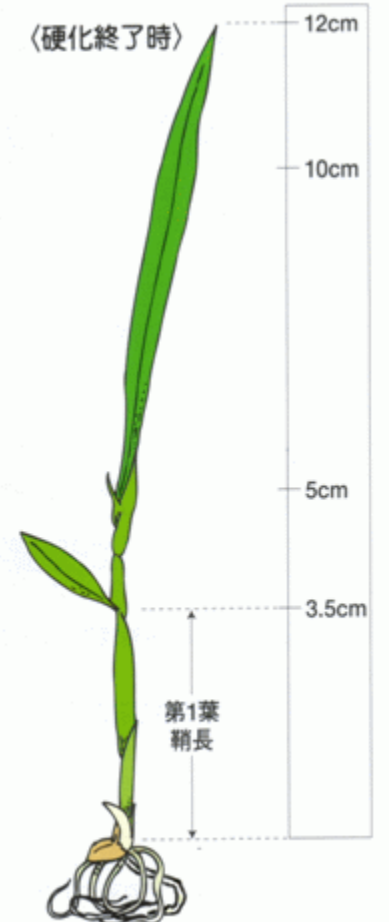
〈出芽終了時〉



〈緑化終了時〉



〈硬化終了時〉



5月10日頃田植 ⇒ 8月5日頃出穂 ⇒ 品質向上!!

20年産からコシヒカリBLの品種構成が変わります。

新潟県における現在のコシヒカリBLは、平成17年度から一斉導入され、従来のコシヒカリにいまもち病真性抵抗性だけを取り入れ、これ以外の性質は従来のコシヒカリと全く同じ品種群です。平成19年度県内14地域の次期BLの実証の結果から栽培上問題となるような違いは見られず、収量及び品質・食味は同等でした。(詳細は、別紙の「品質向上！新潟米」チラシをご覧ください。)

従来からコシヒカリは長稈で、極端な多肥は ①茎数過多 倒伏を助長し品質を低下させます。
②草丈・稈長が伸びて

そのため、品種構成が変わっても、

従来どおり栽培指針にそった栽培管理に努めることが大切です。

ワンポイント！「溝切・中干しには訳がある！」

溝切・中干しは窒素吸収を抑え、過剰生育を防止し、生育後期の稲体を健全に保ち、登熟を良好にするための重要な技術。

- 効果は、① 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減、
- ② 土壌への酸素供給、
- ③ 収穫時の機械作業が可能な地耐力の確保など

「高品質」さらに「環境に優しい米づくり」へ

「20年産なんかん米コシヒカリ」から、従来の慣行栽培を3割減栽培へ移行します。

農薬の使用回数(成分数)と肥料設計にご注意ください。

売り切る「新潟なんかん米」に向け、基本技術の励行による品質向上と環境保全型農業に取り組ましよう